残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(109号)
986-0801　宮城県石巻市水明北３丁目13番28号
TEL /0225-96-1497　Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座　02290-6-126186　口座名称　阿部　一
●代表／阿部　一　　●副代表／菊池せい子

信仰：いのちのことばをしっかり握り

●　受難週からイースターを迎える時期となりました。自然が寒い冬から暖かな春への移行の中で示す「**死から生への復活の姿**」は、私たちに神の大いなる啓示として永遠に生きる希望を与えてくれます。

●この時期、クリスチャンには、闇に苦しんでいた古き自分がキリストの贖いにより、信仰によって導かれ新しい者と変えられたあの時を重ね合わせ、感謝を持って顧みている方も多くおられると思います。

●　私たちの信徒だけの小さい群「**石巻祈りの家**」は、この春に10年目の歩みをスタートします。決して自分たちが望んだことではなかったものの、今日までの日々を振り返るとき、神がそれを良しとし、すべてのものを備え導き続けて下さったことに感謝せざるを得ません。

●　何よりも嬉しいことは、信徒一人一人が、この群で互いに支え合って歩んできたこの9年間の信仰の歩みを喜び、自分の信仰がいつも神と兄姉と結びつけられて成長させてもらったと心から語っていることです。

●　この間には、2011年にあの想像を絶する**東日本大震災**を経験しました。肉親を津波で失った会員もいますし、住まいに大きな被害を受けた者もいます。

●　しかし、この悲しみや苦しみを通して信仰が試され、そして国内外の教会、クリスチャン、ボランティア、支援団体の支援と励ましを通して、隣人として仕えることの意味を体験させて頂きました。

●支援のために訪れた国内外の多くの牧師やクリスチャンと一緒になって聖日礼拝を守るとき、「**主にあって一つ**」であることを実体験で学びました。そのつながりは、今も途切れることなく生かされ、励まされています。

●　クリスチャンとして欠けの多い未熟な私たちに、**いのちのことば**を絶やすことなく与えるために、何と多くの牧師や宣教師が労を執ってくれたでしょうか。また、CGNTVやFEBCのテープ、CDの録音メッセージを通して、福音を聞き続ける道を神は用意して下さいました。

●「**残りの者**」（レムナント）と呼ばれたいと、神に忠実に生きる事を願い、「**信仰においてキリストともに生き、愛において隣人に生きる**」ことを目指してきたこの群を、神は決して蔑ろにはされませんでした、

●　支援活動では、神はDean宣教師という素晴らしい共働者を送って下さり、この小さな群では考えられない大きな働きをさせて頂いただけでなく、主の働き人、主に仕える者の聖書的な模範を私たちの目の前にいつも置いて下さったのです。

●今、10年目に入る私たちに、神はピリピ書2/1-18を通してキリストの模範に見倣って更に忠実な歩みをするように、**いのちのことば（福音）をしっかり握って**、この世で**死に至るまで忠実に歩め**（黙示録2/10）と語ってくださっています。

●今後も、この群が主の教会として**世の光として輝ける**ように皆さんの励ましと教導と祈りの支えを心からお願い申し上げます。

■ 先月の多くの恵みから

❶「3.11東日本大震災追悼記念会（3/11気仙沼・3/12石巻）」は多くの方々の祈りと協力と支援で素晴らしい集会となりました。気仙沼集会は参加者が130名を越え、石巻集会は140名を越え、心を一つにして追悼の時を持つことが出来ました。

❷　この追悼記念式・コンサート参加者のために、岐阜県の日本同盟基督教団**多治見キリスト教会**（山本陽一郎師）の会員が特別献金をして、みことばが巻き込んであるロールペン350本を献品下さいました。また、金沢の聖句書道家橋本百合子先生が教会のために100本の「愛の章」のものを送って下さいました。

❸　3/12の礼拝で、クラッシュジャパンの代表理事の永井敏夫師が（追悼記念会の応援に来られた**イザヤ58ネット**の増田・万年兄も出席）、そして3/26にはSBSの森谷正志師がメッセージの奉仕をして下さいました。

❹　3/7に、東京の星野悦子さんより大きな段ボール2個の生活用品をバザーのためにとお菓子や切手と共に送って下さいました。3/11には「**大阪雑巾を縫う会**」（栗谷信子会長）より600枚近い雑巾、3/1には滝川BBCの高木　弦兄より証しの著書「**イエス・キリストに出会って**」を会員分献品頂きました。

❺　**コーラス「花」**は、3/16に地域の介護施設「**ぬくもりの家**」に歌の訪問ができ、入居者と楽しい一時を共有できました。

❻　3月も多くの方から献金とさまざまな献品で励ましとともに教会活動を支えて頂きました。心から感謝申し上げます。

❼　6/4に、HHPの**竹下力師と静姉**が礼拝の奉仕をして下さいます。4/16のイースター礼拝は例年同様に、**山城町教会**（関川祐一郎師）で合同の礼拝をさせて頂きます

❽　3/19の礼拝にJECA西堀C福音Cの関口/安藤/村田姉が出席下さいました。昨年に引き続き、支援で知り合った被災者訪問のために石巻に来てくださいました。

❾　3/21に歌津に、**南三陸福音教会**（安　重植師）が献堂され、併せて「分かち合い広場」も開所されました。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

① 自宅治療中の大平姉の病が完全に癒やされますように。
② 4/23の2017年度年次総会と10年目の教会の歩みのために。
③教会の地域から真剣に求道する人が起こされますように。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10：00-11：30
・祈り会（毎週水曜日）	10：00-11：30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10：30-12：00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10：30-12：00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13：30-15：00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10：00-12：00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

信仰を詠う

4月　苦しみに対く（む）

かなしみの犇めく真中（まなか） 逆縁の
　姉妹に哭きし津波還りし

こもる部屋、消灯してると語り合う
　ひさかたの変化　夕飼弾みし

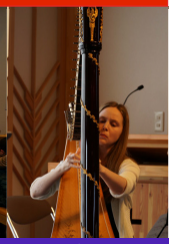
はっはっは、ふっふっふ、へっへっへ、
　ほっほっほ、と笑える日
　欲しいと対きし小雪ちらつく日

阿部 八重子

「楽しみ」は一瞬という気がしますが前進する力が与えられます。「苦しみ」は神様が拭って下さるというのに嘔吐の如くに突き上げて来ます。でも、一番神様を身近に感じられる時です。
―神共にいまして行く道を守り―讃美歌―

●＜祈り＞　私たちの「石巻祈りの家」が10年目の活動に入ります。福音を携え、地域で世の光として忠実に輝けますように。

第３回　宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会(3/11気仙沼・3/12石巻)特集



3/11　気仙沼追悼記念会で14.46にステファン・スミスドルフ師の祈りに合わせて全員で黙祷　最後に参加者全員で「花は咲く」を合唱　ハープ/キャサリン・ポーター

協力アーチスト　長/北方/神山/ポーターさん　被災の証言/ 三浦淑坤さん　J-Symphonieの長/北方さんのデュエット　神山みささんの心に響くゴスペルフォーク

3/12 の石巻釜会館での追悼コンサート　最後に全アーチストのリードで「花は咲く」の大合唱　ハープの調べが心を癒やす　今年も大阪から駆けつけて下さった永田優子さん

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

信徒として、今思うこと、考えること

今、キリスト教会に問われていること

キリスト教会「石巻祈りの家」代表　**阿部　一**

今、世界には大きなうねりが生じている。今回のアメリカ大統領選やヨーロッパの保守勢力の台頭の世界的な風潮を表すことばとしてオックスフォード英語辞典を編纂するオックスフォード大学出版局が、2016年の「Word of the year」として「**ポスト真実**（Post-truth）」を選んだ。

これは。指導者が世論を形成するために、客観的な事実よりも自分の考え方や見方を真実だと民衆の個人的な感情や信条に訴えて、その方向に民衆を誘導する方法である。**真実**は、解釈を含むから**事実**とはかけ離れた誤りを含む情報が平気でまかり通ることもある。その意味で「Post-truth」は「**ポスト-事実**」で、事実が重視されない時代へ入ったことへの警告である。

現代の教会においても、説教が会衆に受け入れらる事だけを主眼とすると**福音**（神の事実）が薄められたり、この世の出来事の講話に堕す危険がある。他方、聖書のみことばの事実から離れ、自己解釈によって人間の思い込みが入り込み、それが声高に主張される続けると「**ほかの福音**（ガラテヤ1/6）」になる可能性がある。

これらの危険性は、初代教会からあったので、パウロは「あなたがたの愛が**真の知識**とあらゆる**識別力**によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、真にすぐれたものを**見分ける**ことができるようになりますように。」（ピリピ1/9-10）、「どうか、あなたがたがあらゆる**霊的な知恵と理解力**によって、**神のみこころに関する真の知識**に満たされますように。」（コロサイ1/9）と、それぞれの手紙の最初の部分で祈り、勧めている。それ故に、語る者は真っ直ぐに神のみことばを取り次ぐ責任があり、聞く者は謙虚にそれを受ける取りそのみことばに従う必要がある。

私は幸いにも、戦後の精神的空白の中で、真剣に動かない真理を求めて神に出会い、みことばに捕らえられ献身した牧師たちの語る福音と彼らの生き様を見て、信仰に導かれた。それに加えて、現実の生活の中で、神のみことばに従い聖さを求めて生きる先輩たちの信仰を目の当たりに見て育てていただいた。伝道集会でも、真っ直ぐなみことばの光の中で罪を鋭く指摘され、泣きながら招きに応じて主に従う決心をする人達を多く見てきた。

しかし、高度成長期と共に経済的に豊になってくると、日本人の心の宝は次第により現実的なものに移っていった。キリスト教会の低迷が囁かれ、危機感を感じ、その原因究明と新たな宣教活動のパラダイムシフトの提言がなされ、試行され、この件に関する本も多く出版されている。そんな中で、あのオーム事件がこの傾向に拍車をかけた。

最近 TCU国際宣教センター日本宣教リサーチ柴田初男専門委員が「キリスト教の30年後を読むの一部を「**震災と信仰調査**」報告書(同センター発行）に掲載している。そこで、低迷の3つの壁の第一として「**教会内部（牧師・信徒）の霊性・体制的な問題**」を取り上げ、発信力・伝達力の低下を上げている。

聖書を読むと、使徒11章にバルナバがサウロを探し出し、アンテオケに連れて行き、そこでまる1年の間教会に集まり大勢の人たちを教え、弟子たちはここで初めて「**キリスト者**」と呼ばれたとある。彼らが、罪と神の愛の本質を理解し、悔い改め、神の愛に答えるその現実生活の大変革を周りの人達が認めざるを得なかったのであろうと思う。

そこで思い起こすのは、ガンジーが「クリスチャンがキリスト書の教えにもっと従って生きていれば、もっと多くの人がクリスチャンになるであろう。」と話したことである。問題の根幹は「伝えていることとやっていることの乖離」だという指摘である。

最近、教会で、「**愛**」や「**感謝**」のことばがが溢れているのに、「**聖化**」や「**悔い改め**」ということばが少なくなったと感じるのは私だけであろうか。これらのことばは「**神との関係**」と「**罪**」がベースになっている。

入信のころ読んだケズィック選集の「**クリスチャンの罪**」を読み直したが、当時いかに聖化を求め、いかに真剣に罪の問題を現実の生活での問題として取り組んでいたかを教えられる。そしてこのケズィックの運動は、本気にこの問題にを取り組もうとした小さな集会から始まっている。

Post-truthの時代に、神の真実を伝えるためには、自らの足りなさと罪深さを正しく認識し、神に憐れみと愛に応えるために、**恵みを受けた私たち一人一人**が、神のことばに示された品性と行動における**ホーリネス**を求める真剣な生き方が求められる。神との関係が修復されたとは言え、現実の日々の生活で犯してしまう小さな罪を蔑ろにしない値引きしない聖さを求める姿勢ではないだろうか。